ドクター＋フジ

ニッポン臨終図巻

ドクター和の

長尾和宏（ながお・かずひろ）　医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

⑦⓪ さくらももこ

命の尊さを歌詞にした「100万年の幸せ!!」

「2012年のお正月、いきなりさくらももこ先生が詞を書いてくださって、これに歌をつけてくれませんかと。すてきな詞だったし、お手紙の感じがすごく良かったので、ぜひやらせてもらいますと曲を作りました…何の恩返しもできなかった…」

桑田佳祐さん＝顔写真＝の人気ラジオ番組「やさしい夜遊び」。9月1日の生放送で桑田さんはこう言って、ちびまる子ちゃんの主題歌だった『100万年の幸せ!!』をギターで熱唱されました。

ちびまる子ちゃんの生みの親である漫画家のももこさんが8月15日に亡くなりました。享年53。死因は乳がんでした。

深夜の往診の帰り、車中で桑田さんのラジオを聴いていた私は思わず泣きました。この歌は「今を生きている喜びが宇宙（そら）をかける」という歌詞から始まります。

桑田さんが食道がんになり休業されたのは10年のこと。しかしその翌年に起きた東日本大震災のチャリティー活動を機に、再び積極的に歌い始めます。

そんな桑田さんに感動し、ももこさんはこの歌詞を贈ったのではないでしょうか。そして、ももこさん自身が乳がんと診断をされたのも、大震災の直後くらいだったという報道がありました。

己のがんと向き合いながらも、震災で失われた多くの命と残された命のため何かをしなければ、という想い。分野は違えど、この国を代表する2人のアーティストが、同じ価値観を持って命の尊さを訴えたのが『100万年の幸せ!!』だったのか…と泣けたのです。

ももこさんの訃報が突然だったために、いきなり死んでしまったと思っている方も多いかもしれません。しかし、先の震災直後の発覚が事実だとすれば、乳がんの闘病は長期にわたるものだったようです。さまざまなタイプがあるので、もちろん一括りにはできませんが、乳がんは、比較的長く付き合っていくがんです。

国立がん研究センターの今年の発表によると乳がんの10年生存率（がんと診断された人が10年後に生存している割合）は80％を超えています。がん全体では55・5％ですから、その差は歴然。

ももこさんも、死に悲観的にはならずに、しかし、生の尊さを噛み締めながら闘病を続け、最期まで創作に挑まれたように思います。

闘病の詳細はごく近しい人にしか明かさなかったのは、自分の分身である作品に、悲しい色が付くのを避けたかったこともあるはず。桑田作品にも、同じ想いを感じることがあります。

桑田さんとももこさんの共通点は、「人に希望を持たせ、励ましてこそアーティスト」という気概ではないでしょうか。100万年の幸せ!!　今こそ聴いてほしいです。